

〒514-0009
津市羽所町54番地
TEL 059-225-4735
FAX 059-225-0183



2003年4月1日
はがき会報 第40号
発行第一部会
情報文化委員会

日広連・デザインデータベース補助事業から

IT化推進とその背景のあらし 情報化推進専門委員会 委員長・森本晃

1996年6月、三菱総研による業界21世紀への指針が発表された同時期、情報文化委員会において、自費で製作した日広連のホームページのデモンストレーションを行い、インターネットの活用と情報技術(IT化)の推進を提案した。

その時点では、全世界のインターネット利用者の総数は、3,500万人とも5,000万人とも云われ、接続されるマシン(ワークステーション)数は400万台。電子メールをやりとりできる国の数は140か国と云う統計が出ていた。また、月平均10%の割合で接続ネットワークの数を増やしつつあると云う。しかもインターネットの普及によって、第三次産業革命が起ころうとしていると同時に、組織もリーダも凄まじい勢いで、世代交代をせざるを得ない時代に入った現況であった。我が国においても次第にその様相を呈し、マスコミなどが連日紙面でとりあげた。

それから既に8年の歳月がながれた。ソニーの出井伸之会長は、デジタル時代は年が年分のスピードと表現しているが、つまりドックイヤー(伏)の年齢と云う言葉を借りれば、実に56年と云う半世紀に匹敵する。そのような現況において、21世紀への指針とも符合するところから、情報文化委員会においても、いち早く情報化の推進を事業計画に盛り込んで、小委員会を設置した。しかし、推進には至らなかった。

翌、1997年事務局独断での、日広連フォーラムとしてホームページが開設された。当時は組織の実質的な運営は事務局主導がその実態であり、情報文化委員会で提案したものは、かけはなれた内容であった。しかも、パソコン通信のニフティサーブの会員になることが条件となっており、ニフティサーブからでない日広連のホームページに、直接接続ができない不便なものであったが、後に改善された。

当時、日広連/インターネットの活用について以下の提案をしている「インターネットに接続の会員組織の構築」「SIGN誌」「屋外広告便覧第4版」「サインボード・デザイン通信講座」「厚生事業の事務の合理化」「屋外広告士通信講座」の開設をあげている。

特にsign誌は、全頁のデジタル化を想定しており、今回の画像データベース化はそれに起因するものであり、情報文化委員会にとっては長年の夢の実現であり、集大成とも云うべきものである。

1998年～1999年にかけて、情報文化委員会において、資材データベース整備事業の推進について提案した。この事業は、政府の情報化促進事業の一環としての支援を受けながら、市場調査からシステム化、さらに実証実験を含めて数億円程度の事業規模で実施しようというものだった。

しかし、日広連が単独で行うべき事業ではなく、関連する業界企業がコンソーシアムを形成することが絶対条件であるため、そのコンセンサスが得られないかぎり、成功するものではなかった。

そのため、まずは外堀を固めなければと、情報環境デザイン(株)白石氏の協力を得て半年間、手弁当でメーカー各社を訪問し、コンセンサスを得ることができた。その確証をひっさげて、説明のために理事会に望んだが、無惨にも問答無用同然の対応に愕然とした。今もその記憶が鮮明に蘇る。中央委員の身分で理事会の席上において、事業の提案をした例は日広連有史以来のことである。

しかし、情報化推進への情熱を抑えることが出来なかった。その思いを、次期会長に囑望されていた橋本現会長に書面で訴えた。その後、面談する機会を得たが、やはり慎重に取組むようにとのアドバイスであった。その後、旧執行部の刷新にともない、現執行部が誕生した。前後して情報化の推進を基軸とした日広連の誕生を見ることとなり、いよいよその気運が、整ってきたことを実感した。

2001年2月、橋本新執行部が誕生後の理事会において、情報化の推進が承認された。それを受けて、情報文化委員会において、情報化推進専門委員会が設置され、その旗振り役に提案者の私が指名され、いよいよ情報化への始動を開始することになる。

2001年7月23日に開催された第1回の委員会を皮きりに、2002年6月までの間、合計9回に及び委員会が開催され、業界唯一の全国組織としての、情報サービスの総合計画の骨格が確立しsign誌と日広連に加わる第三の情報として「e-signs」のサイトを2002年1月にリニューアルオープンし「sign-biz」のサイトは、同年7月に収益性を基本として情報サービスを開始した。

この二つのサイトは、日広連の将来において基幹事業として発展することを強く望むものであるが、現状では業界全体に、その環境が整っているとは言い難く、今後期待するところである。

この度のインターネットによるデータベースシステムの構築事業は、その線上に位置する事業であり「情報化・開発委員会」として、その事業にあたり、多くの皆様のご理解とご協力によって、完成を見ることができ心を心から感謝申し上げますと同時に、特に白石氏を始め同社スタッフの皆様のお力添えがなければ、到底成し得なかったものと痛感している。ここに改めて、深く感謝申し上げます次第である。

三広美のホームページ
アドレスが変更します

<http://www.e-signsmie.com>